



友との歌声に溢れる笑顔

第24回ふる里山田同郷の会

参加者全員で歌う「北国の春」が会場中に響き渡りました



東京近郊に暮らす本町出身者などが集い、交流を深め合う「ふる里山田同郷の会」が6月7日、東京都文京区の東京ガーデンパレスを会場に開かれました。今年で24回目となる同会には会員など126人が出席。町からも沼崎喜一町長をはじめ職員5人、町議会から生駒利治副議長、山田町商工会から阿部幸榮会長が参加しました。総会終了後には「懇親交流のつどい」が開かれ、参加者は年に一度の同郷人との交流を楽しみました。



あいさつを述べる小川会長

総会では、小川^{としひら}会長が「最近の消費者は食の安全・安心に非常に敏感で、品質を保つため山田の生産者の皆さんはたいへんご苦労なさっていることと察します。私は埼玉で海産物の仲卸業を営んでおりますが、山

田の物産のPRを行うことで生まれ育った古里に少しでも恩返しができるかと考えています。会員の皆さんも『ふるさと納税制度』などで古里をバックアップしていただきたいと思えます。わが町山田から明るいニュースが聞こえてくることを期待しています。本日は時間の許す限りごゆっくりとお楽しみください」とあいさつしました。

続いて、沼崎喜一町長が町の近況を報告。「昨年7月の鈴木善幸先生の顕彰碑建立に当たりましては、ふる里山田同郷の会の皆さんには多大なご支援をい